



手塚治虫と大阪

大阪発見まちあるきツアー

大阪発見まちあるきツアーマップについて

本マップは、大阪商工会議所が、市民やまちあるきガイドとのコミュニケーションを通じて、大阪の街を歩いて楽しむことができるよう、手塚治虫ゆかりの地を記した『虫マップ』作者・田浦紀子さんとともに、企画、製作したものです。マップ片手に大阪のあちこちを巡り、大阪の歴史や文化に触れながら、新たな魅力発見を楽しんでください。

手塚治虫ゆかりの地を記した研究誌『虫マップ』を発行

田浦紀子さん



手塚漫画の魅力を知り、1997年に手塚治虫ゆかりの地を記した『虫マップ』を発表。好評から改訂を重ね、今ではライフワークとして発行し続けています。

初めて読んだ手塚漫画は『火の鳥』。自然への畏敬、生命の尊さ—手塚漫画に共通して流れる普遍的哲学"手塚イズム"に触れ、すっかり虜になりました。手塚作品に接するうちに作品に登場する建物や樹木が現存することを知り、その軌跡を訪ねて歩くようになりました。それらゆかりの地をまとめたものが『虫マップ』です。宝塚、池田、岡町、十三、中津、梅田、中之島など、関西に残る手塚治虫ゆかりの地を紹介。同名サイトで情報を発信しています。

HP▶ 虫マップ—手塚治虫ゆかりの地を訪ねて—
<http://www.2ocn.ne.jp/~norimi/mushimap.html>

大阪ナイトカルチャー HP

大阪の夜をもっと楽しむためのイベント情報はこちら
<http://www.osaka-nightculture.com/>

大阪観光 HP OSAKA-INFO

大阪の観光情報を網羅したHP。宿泊施設の検索やグルメ情報も満載
<http://www.osaka-info.jp/>

発行：大阪商工会議所 地域振興部

2008.10

〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8
 TEL: 06-6944-6323 FAX: 06-6944-6330
 E-mail: chishin@osaka.cci.or.jp URL: <http://www.osaka.cci.or.jp/>

このガイドマップは「地域資源×全国展開プロジェクト」の一環として製作されたものです。
 design by alt.design associates

歩いて感じる手塚治虫の世界

手塚治虫ゆかりの地めぐり
 『陽だまりの樹』から『鉄腕アトム』へ

コース紹介

漫画家・手塚治虫は、1928年11月3日大阪府豊中市に誕生し、上京するまでの約25年間を関西で過ごしました。大阪の中心部には手塚治虫のマンガやエッセイなどに登場するスポットが数多く残っています。本ツアーでは、船場・中之島沿いに残る、知られざる手塚治虫ゆかりの地を巡ります。

カール・ツァイスII型プラネタリウム

MAP▶ ③⑦

「淀屋橋交差点の角のビルに石原時計店という立派な店がある。これは戦前、心斎橋にあった老舗で、現在の社長の石原氏は、ぼくの小学校のクラスメートだった。彼がぼくを星の世界へいざない、プラネタリウムと結びつけてくれたのである。」手塚治虫はエッセイ『懐かしのプラネタリウム』の冒頭でこう語っています。



◎手塚プロダクション
 石原実さんがモデルとなった金三角色紙：石原実さん所有



大阪市立電気科学館



電気科学館で講演する手塚治虫（1987年）

1937年、四ツ橋に大阪市立電気科学館が開館しました。その目玉となったのが日本初のカール・ツァイスII型プラネタリウムです。手塚治虫が電気科学館へ行くきっかけとなったのが小学校の同級生、石原実さん。当時、四ツ橋から徒歩5分の心斎橋南詰に石原時計店があり、「今度近くに電気科学館ができたから」ということで、石原さんのお父さんに連れられて遊びに行ったのが最初だったそうです。以来、手塚治虫は天体に魅せられ、通いつめるようになりました。電気科学館のプラネタリウムに強烈な印象を受けた手塚治虫は、のちに同機を『漫画天文学』の中で登場させています。また、プラネタリウムを真似て石鹸箱に穴を開けた自家製プラネタリウムを作り、自宅の押入れで友人達に披露したというエピソードも残っています。

電気科学館は1989年5月に閉館、9年後に解体されました。しかし、手塚治虫が魅せられたプラネタリウムは、今も大阪市立科学館で展示保存されています。同機は2000年12月には大阪市の有形文化財に指定され、その際、手塚治虫のサインが入った『漫画天文学』の色紙も一緒に展示公開されたそうです。



電気科学館の天象館案内（昭和15年頃の見学者配布用リーフレット）



大阪市立科学館に展示保存されているツァイスII型プラネタリウム

図版提供：大阪市立科学館

千成一茶の銘菓プラネタリウム



現在販売されている銘菓プラネタリウム

かつて電気科学館の売店で「プラネタリウム」というお菓子が販売されていました。長めのクッキーに銀色の砂糖粒を散らし、星空に見立てたお菓子で、手塚治虫はその思い出を『懐かしのプラネタリウム』で語っています。このお菓子が大阪市都島区の千成一茶で復刻販売されています。当時販売されていたクッキーから洋風饅頭にアレンジされ、名前も「プラネタリウム」から「プラネタリウム」とレトロ感のあるネーミングになりました。店内には手塚治虫から店主に宛てられたお礼状が展示されています。

千成一茶
 住所／大阪市都島区都島本通2-11-11
 電話／06-6922-2010
 時間／9:00-18:00
 休業日／日曜・祝日



手塚治虫より店主へ宛てられたお礼状
 多忙なためか切手を貼り忘れ、料金不足のラベルが貼られている

適塾 MAP▶ ②

淀屋橋のビジネス街の一角にひっそりと残る適塾。現在の大阪大学の前身であり、『陽だまりの樹』の舞台のひとつとなった適塾は、幕末の大阪にあって多くの逸材を世に送り出してきました。手塚治虫の曾祖父・手塚良庵もその一人です。



適塾二階 塾生大部屋

適塾（適々齋塾）は蘭学者・緒方洪庵が、天保九年（1838年）から文久二年（1862年）に幕府の奥医師として江戸に迎えられるまでの24年間にわたって開いた学塾です。現在、その建物は重要文化財に指定され、館内には洪庵が使っていた薬箱、ツーフ・ハルマ、解体新書など当時を知る貴重な史料が数多く展示されています。

急な階段を上って奥へ進むと学生大部屋。部屋の真ん中の柱には刀傷があり、血気盛んな塾生連の姿が思い浮かびます。この部屋で当時何十人もの塾生が勉強し、寝起きしていました。塾生の人数が多かったために、一人あたり一畳分の面積が割り当てられるだけだったそうです。さらに奥の小部屋には、塾生約600人の「姓名録」が保存されています。この部屋で、『陽だまりの樹』に登場する手塚良庵の漫画のカットと手塚治虫の写真が額に入れられて展示されていました。手塚作品はここでも生きていたのです。

福澤諭吉の『福翁自伝』には適塾の様子が書かれており、その中には手塚良庵にまつわるエピソードもあります。例えば、福澤諭吉たちが組んだ遊女の二七手紙に手塚良庵が騙されるエピソード。他にも、福澤諭吉が裸でいたところに洪庵の妻・八重夫人が現れて赤面した話、豚を解剖したのち食べてしまう話、橋の上から小皿を投げた話、船の上でアンモニアを作った話など。これらのエピソードを手塚治虫は上手くアレンジして『陽だまりの樹』の作品中に取り入れています。

余談ながら、手塚治虫の出身校・北野中学には緒方洪庵の孫も在籍していました。また、手塚治虫が大阪大学医学部附属医学専門部に進学したことを思うと、適塾との深い縁を感じずにはいられません。

除痘館跡 MAP▶ 1b

緒方洪庵は種痘を広め、天然痘の予防に努めた人物として知られています。手塚良庵は適塾に学び、後に江戸で種痘所の設立に尽力しました。このことから、適塾の南にある除痘館跡（洪庵記念会・緒方ビル1階）に『陽だまりの樹』のイラストが設置されました。緒方洪庵と手塚良庵が種痘をしている様子が描かれています。



◎手塚プロダクション

大阪朝日会館 MAP▶ ⑤

手塚治虫が生涯追い求めた夢・アニメーション。その原点は幼少期に触れたディズニーなど海外の漫画映画でした。その漫画映画との出会いを手塚治虫は自伝『ぼくはマンガ家』でこう語っています。

「大阪の朝日会館で、毎年正月に漫画映画大会をやる。それを母に連れられて正月三日に観に行くのが、わが家の恒例であった。ポパイやベティ・ブーブものと一緒に当時まだめずらしかったディズニーのカラー漫画ものをやっていた。」

大阪朝日会館は1926年（大正15年）に開館し1962年（昭和37年）に閉館。エジプト式を基調にしたデザインで、金縁のガラス窓に新聞の印刷インクを塗った黒い建物。常に内外の一流の音楽、演劇、映画が上演され、大阪の近代文化の中心でした。周辺には朝日ビル、中央電気倶楽部、大阪市中央公会堂、ガスビル、ダイヤビルなどの近代建築が数多く現存することを思うと、ここが大阪の一大文化ゾーンだったことも頷けます。



朝日ビルディングと朝日会館

図版提供：橋爪紳也コレクション

ただ、手塚治虫自身は朝日会館の建物についてあまり印象に残らなかったのでしょうか。エピソードとしてあげているのは、次のようなことでした。ディズニーの漫画映画を観に大阪駅からタクシーに乗って朝日会館へ。到着したものの、なんと母親が札入れを忘れ、タクシーの運転手に「一円にまけなさいよ。いいじゃないの、正月だから、ね、運ちゃん」と。旧式な軍人の家庭に育った母の、意外な言葉遣いが幼な心に印象的だったと語っています。また、阪大医専時代、手塚治虫は学生劇団・学友座に所属していました。その学友座の公演も朝日会館で開催されることが多かったそうです。

朝日会館が姿を消したのち、その地には朝日新聞ビルが建てられました。隣接する朝日ビルディングを「く」の字状に囲むように建っています。そして、朝日会館の文化事業はのちにフェスティバルホールへと引き継がれました。ところで朝日会館の東隣りにあったのが、昭和のモダン建築として有名な朝日ビルディングです。1931年（昭和6年）竣工のオフィスビルで、設計は竹中工務店の石川純一郎。ステンレス・スチールなどの金属パネルを外装に使用し、最上階に曲面ガラスを使うなど非常に斬新なデザインのビルでした。当時は喫茶室や高級レストラン「アラスカ」があり、手塚家もここで食事をした後に映画を観に行ったとのこと。「アラスカ」は谷崎潤一郎の『細雪』にも登場する老舗で、現在も朝日新聞ビルの13階で営業しています。



1a 古手町除痘館跡

1b 尼崎町除痘館跡

除痘館は、天然痘予防のための牛痘種痘を行う場所として、緒方洪庵が中心になって嘉永2年(1849年)に古手町(道修町)に開設された。万延元年(1866年)には適塾の南(尼崎町・現在の今橋3丁目)に移転し、事業を拡張。現在、財団法人洪庵記念会・緒方ビルが建っていて、壁面には「除痘館跡」の銘板が埋め込まれている。また、2007年、緒方ビル4階に除痘館記念資料室が開設され、その際、緒方ビルの入口左手に『陽だまりの樹』のイラストが設置された。



3 石原時計店

石原時計店・現社長の石原実は、手塚治虫と池田師範附属小学校時代の同級生であった。石原が手塚に貸した平山修次郎の著書『原色千種昆虫図譜』が手塚を昆虫の世界へいざなうきっかけとなった。また、石原は開館間もない四ツ橋の電気科学館に手塚を誘う。ここで見た日本初のプラネタリウムは、『鉄腕アトム』『W3』『マグマ大使』などのちの手塚マンガのSF世界に繋がった。手塚は後年、電気科学館の会報誌に寄稿したエッセイ『懐かしのプラネタリウム』で石原との関係を語っている。ちなみに『鉄腕アトム』等に登場するキャラ「金三角」は石原がモデルといわれている。



現在の石原時計店



心斎橋時代の石原時計店

5 朝日ビルディング

大阪朝日会館で毎年正月三日に行われる漫画映画大会を観に行くのが、手塚家の恒例行事であった。朝日会館ではディズニーなど海外の漫画映画を上映していた。その朝日会館に隣接していたのが、現存する朝日ビルディングである。喫茶室や高級レストラン「アラスカ」があり、手塚家もここで食事をした。



6a 大阪大学医学部跡地

6b 大阪大学医学部附属病院跡地

1945年、手塚治虫は大阪大学医学部附属医学専門部に入学。医学の道を志しながら漫画を描き続ける。『がちゃぼい一代記』には阪大時代のエピソードが描かれている。卒業後は一年間、インターン生活を送る。



2 適塾

適塾は蘭学者・緒方洪庵が、天保九年(1838年)から文久二年(1862年)にかけて開いた学塾。現在の大阪大学の前身である。福沢諭吉、原田翫蔵、大鳥圭介、大村益次郎、橋本左内など多数の門下生を輩出した。その適塾に、手塚治虫の曾祖父・手塚良庵(のちに手塚良仙と改名)は、359番目の門下生として入門した。福澤諭吉の『福翁自伝』に手塚良庵に関する記述があり、それをヒントに描かれたのが手塚治虫の『陽だまりの樹』である。



住所 / 大阪市中央区北浜3-3-8
電話 / 06-6231-1970
開館時間 / 10:00-16:00
休館日 / 月曜日(祝日の場合は開館)
国民の祝日の翌日
(土・日・祝日の場合は開館)
年末年始(12月28日-1月4日)

4 毎日新聞社本社ビル跡

手塚治虫は1946年正月よりスターとした四コマ漫画『マアチャンの日記帳』でデビュー。連載は当初1ヶ月の予定が3ヶ月に延長され、好評を博した。本作が掲載されたのが毎日新聞社発行の『少国民新聞』(のちの『毎日小学生新聞関西版』)であった。大阪大学医学部附属医学専門部在学中であった手塚は当時中之島にあった同大学への通学途中に、この毎日新聞本社に原稿を届けていた。現在、同地には堂島アバンザが建っており、毎日新聞大阪本社堂島社屋の正面玄関部分がモニュメントとして復元保存されている。



7 大阪市立科学館

1937年、四ツ橋に大阪市立電気科学館がオープン。その目玉となったのが日本初のカールツァイスII型プラネタリウムである。少年時代、電気科学館に何度も通いつめた手塚は、のちに同機を『漫画天文学』の中で描いている。1989年、電気科学館が閉館したのち、その事業は中之島の大阪市立科学館に引き継がれた。かつて電気科学館で活躍したツァイスII型プラネタリウムは市立科学館のサイエンスシアターで展示保存されている。



住所 / 大阪市北区中之島4-2-1
電話 / 06-6444-5656
開館時間 / 9:30-16:45
休館日 / 月曜日
(祝日の場合は開館)

(文中敬称略)



ウォーキング
トイレ

